

五て辨古きし忠義傳き者一人ありて
金氏へとせしむる形者難く顔中を傷み
九月十日戌ノ下刻小金氏の城一掃日大相前田
石の前あり形者佐と内庭助成政未成を反
血攻節しつた城中才令とて持防き敵ひに故
只今まで持しつぬれども款は多勢あり討とも
疹母と入参く攻め味方一敗不き年終る無糧
矢種無絶の玉葉をそへ上を迫る居城小と及
つくは云葉を初城中に一年一人も残らず討
死仕者たして城を没するくは只片討しつて後
後

と事と事村り甲しつと隠匿に村家はと
きしむひさしハ後後ととて軍兵と假さ
る志は事村家の前やまて形ありて事村家
今て城を破るおとすめりつて恨不申者
凡多くととて村家きしむひわねの時を在
説母りくりつものとうの事村りつ政信
長らし水希平とてお用して尾品荒子の
城と破る居さるりつ程の大刻の太りれ
ハ討死し遂に城を没すあり多勢あり
く利家り眼を遠よりつと長男孫四郎